

稲作だより

第 1 号

育苗準備編

令和5年3月13日発行

山形おいしさ極める！米づくりプロジェクト

最上地域本部

最上総合支庁農業技術普及課

Tel 29-1329 (稲作担当)

春作業の準備は計画的に！ 種子浸漬は丁寧に！

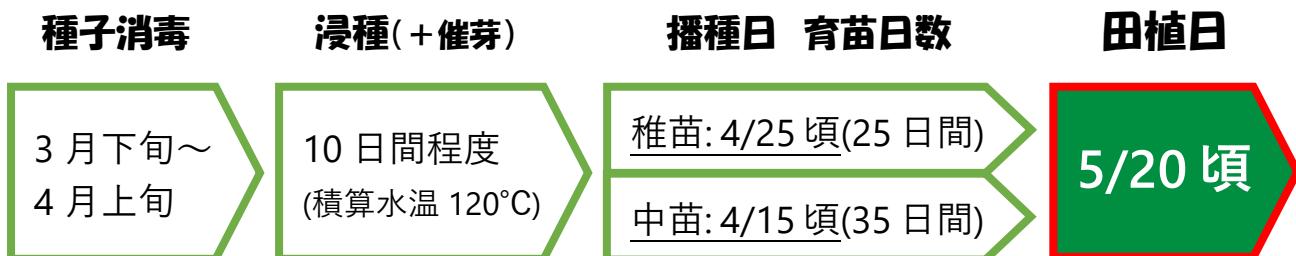
水田の雪解けも着実に進み、春への足音が近づいてきております。
育苗場所の除雪や融雪剤散布など、計画的に春作業を進め、今年の稲作をスタートしましょう。

◎早めの融雪

育苗予定地において、育苗時期までに融雪が見込めない場合は、早めの除雪や融雪剤等の散布を行いましょう。

◎田植日から逆算して計画的な育苗を

苗の種類ごと（稚苗、中苗）に適正な育苗日数が異なるため、田植日から逆算し、計画的に作業日程を設定しましょう。



5 / 2 0 頃の田植えを目標とした育苗作業計画の例

初期莖数を安定して確保するためには、健苗（ずんぐりしていて老化していない苗）を適期に移植
しましょう。

◎播種前作業のポイント

1 塩水選

塩水の比重（うるち 1.13、もち 1.08）を確認して充実した粳を選別します。また、塩水選後は、種粳をきれいな水で洗いましょう。

2 種子消毒 ～使用する水、網袋や容器等は清潔なものを！～

◎ 薬剤処理

薬液の温度が低すぎると薬剤処理の効果や種子の発芽に悪影響がでる可能性があります。処理開始時は10℃以上の水温を確保しましょう。

県内で、プロクロラズ剤（商品名：スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE）耐性ばか苗病菌が確認されているので注意しましょう。

◎ 温湯消毒（うるち品種のみ ※もち品種は発芽率が低下する可能性あり）

保温機能がある専用機械を使用する場合は、「58℃ 20分」または「60℃ 15分」浸漬が目安になります。

※塩水選後、温湯消毒まで1時間以上経過する場合は、いったん粃水分を15%以下まで乾燥させてから処理しましょう。

3 浸種・催芽 ～低水温・長期間の浸種は厳禁！～

◎ 浸種は 水温10～15℃、積算水温100～120℃ が目安です。

特に、浸種開始時の水温が低すぎると発芽率が低下します。浸種開始時の水温が10℃以上になるように、水温が低い場合は温水を加える等の対応を行いましょ

水温が15℃を超えるとばか苗病が発生しやすくなるため、直射日光を避け水温が上がりすぎないようにしましょ

品種別 浸種時間の目安

品 種	積算水温	浸種日数の目安
はえぬき、雪若丸、つや姫、あきたこまち、ひとめぼれ、コシヒカリ、山形95号	120℃	10℃12日間
ササニシキ、ヒメノモチ	100℃	10℃10日間

◎ 催芽は 水温30～32℃、20時間浸漬 が目安です。ハト胸状態を必ず確認してから終了しましょ。 ※ヒメノモチは伸びやすいので特に注意を！

◎ 田んぼの土づくり

近年、田んぼの土壌pHが低下しており、当課が調査している田んぼの中にもpHが4.5前後の圃場がみられます

適正なpHは5.5～6.0です。

まずは土壌診断を行い、田んぼの状態を確認しましょ。

**令和5年の農作業が始まります。
農作業は、あせらず！気もまず！慎重に！**

